

新病院建設だより

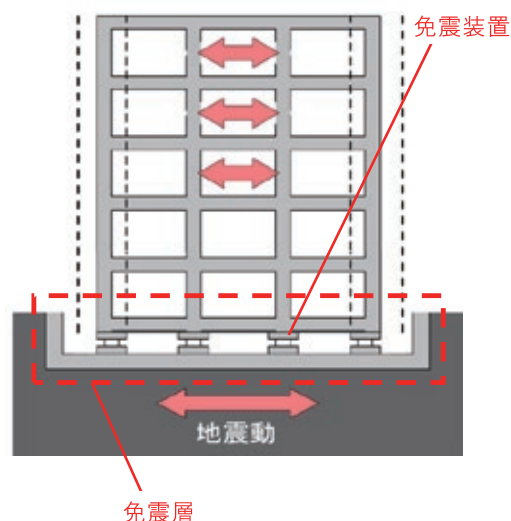


新病院本棟の鉄骨建て方工事中です。建物全体の約1/4の鉄骨の組み立てが終わりました。(令和6年10月時点)

新病院は、地階に免震装置を設置した免震建物です。免震建物は、一般の建物と比べて地震による激しい揺れを受け流し、建物、家具、人への被害を少なくすることができる建物です。建物および医療機器の被害を抑えることで、大地震が発生した場合でも病院機能を維持することができます。

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では多くの病院が被災しましたが、免震建物の病院は被害が少なく、早期に医療活動を再開することができました。

新病院は、大災害が発生した場合でも病院機能を維持し、医療活動を継続できる病院づくりを行っています。免震構造の採用のほかにも、2回線受電方式の採用、ライフライン途絶時に3日間病院機能を維持できる設備の整備、耐震性の高い配管による上水道の整備など、様々な対策を行っています。



建設現場の状況



南東側から見た建設地（令和6年10月末日）



上空から見た調整池

新病院建設工事の進捗状況は10月末時点で進捗率15%です。2月から基礎工事を開始し、8月には基礎部分に免振装置を設置しました。現在は鉄骨建て方工事を行っています。

2024年（令和6年）	2025年（令和7年）				2026年（令和8年）
10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
鉄骨建て方工事		屋上防水工事		クリーニング検査	開院準備
	外壁工事			建物完成	開院
		内装工事・設備工事			

新病院の名称等が決定

令和6年7月26日に開催された東濃中部病院事務組合議会臨時会において、「東濃中部病院事務組合病院事業の設置等に関する条例の一部を改正する条例について」が可決され、新病院の名称、診療科目等が次のとおり決定しました。

〈病院名称〉 公立東濃中部医療センター

〈診療科目〉 内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、血液内科、精神科、小児科、外科、消化器外科、呼吸器外科、乳腺・内分泌外科、血管外科、大腸・肛門外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、泌尿器科、皮膚科、リウマチ科、アレルギー科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、放射線診断科、放射線治療科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科

※令和6年7月26日時点

シンボルマーク・ロゴタイプを制定



公立東濃中部医療センター
Tono Chubu Medical Center

新病院のシンボルマークとロゴタイプを制定しました。

ロゴマークは、名称の「Tono Chubu」の「T」と「Medical Center」の「M」をモチーフにしています。手を取りあう二人の姿は、地域のみなさまや患者さまと公立東濃中部医療センターとの確かな信頼関係をイメージしています。また、「T」と「M」には「土岐市」と「瑞浪市」の意味も込めています。

ロゴタイプは、日本語をオリジナルフォントとし、日本語・英語とも遠くから見ても、また、小さい文字でも読みやすいようユニバーサルデザインに配慮しています。

新病院内に入るテナント業者が決定

令和6年2月に新病院内に入る「売店」及び「薬局・食堂」を整備・運営する事業者を選定するためのプロポーザル審査を実施し、事業候補者を選定しました。その後、事業候補者と協議を進め、以下のとおり事業者が決定しました。
各テナントは、すべて新病院1階に設置される予定です。

● 売店 株式会社ローソン



売店イメージ

● 薬局・食堂 中部薬品株式会社



食堂イメージ

公立病院経営強化プランを策定

東濃中部病院事務組合と土岐市は、土岐市立総合病院と令和8年2月に開院予定の公立東濃中部医療センターを継続的かつ安定的に運営していくために、「土岐市立総合病院及び公立東濃中部医療センター経営強化プラン」を策定しました。

● 公立東濃中部医療センター編（抜粋）

○策定期間

令和7年度～令和9年度

○新病院の果たすべき役割・機能

- ・統合に伴う医師集約による診療提供体制・診療機能の強化
- ・市外流出の多い救急医療及び各種疾患（循環器系疾患、新生物、内分泌系疾患、周産期医療等）への対応
- ・急性期医療から回復期、慢性期、在宅医療を切れ目なく提供する地域医療体制の中心的役割

○数値目標

項 目		令和7年度	令和8年度	令和9年度
医療機能等	一日あたりの入院患者数	190人	290人	320人
	一日あたりの外来患者数	700人	820人	820人
	健診者数（人間ドック）	800人	6,400人	6,400人
経営効率化等	経常収支比率	69.8%	98.8%	102.2%
	病床利用率	47.5%	72.5%	80.0%
	外来患者数	27,300人	197,620人	199,260人

○目標達成に向けた具体的な取組

医療スタッフの充実等による患者増加・増収により各数値目標を達成し、安定した経営を行えるよう運営者に働きかける。

助産師修学資金・就業資金 貸与制度のご案内

公立東濃中部医療センター（令和8年2月開院予定）の助産師として働きたい人に、修学資金または就業資金をお貸しする制度です。

お母さんと赤ちゃんを
サポートする助産師

みなさんの夢を応援します！

修学資金

10万円
〈月額〉
(年額: 120万円)

就業資金

20万円

指定医療機関の助産師として一定期間勤務すれば ➔ **全額返還免除**

指定医療機関の助産師として勤務しようとする意志を有する者に対して、修学又は就業に要する資金を貸与する制度です。
資金の貸与を受けた者が指定医療機関の助産師として一定期間従事した場合は、資金の返還を免除します。

	修学資金	就業資金
応募資格	保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）第20条に規定する学校又は助産師養成所の助産に関する専門知識を習得するための課程に在学する者であって、将来、指定医療機関の助産師として従事しようとするもの	6ヶ月以上助産師業務に従事していない助産師であって、将来、指定医療機関に従事しようとするもの（修学資金の貸与を受けた者を除く。）
貸与の期間	貸与を決定した日の属する年度の4月から翌年3月まで	貸与を決定した日から指定医療機関の助産師として従事した日の前日まで（2年を限度）
貸与の時期	原則として3月分を一括して4月、7月、10月及び1月に指定の銀行口座に振り込みます。ただし、貸与を決定した日がこれらの月以降の場合における最初の貸与については、当該決定をした日の属する月の翌月に振り込みます。	貸与を決定した日の属する月の翌月に指定の銀行口座に振り込みます。
指定施設	公立東濃中部医療センター 但し、公立東濃中部医療センターは現在建設中（令和8年2月開院予定）につき、開院するまでの間、土岐市立総合病院又は東濃厚生病院を指定医療機関とします。	

【資金の返還】

次の返還事由が生じたときは、指定の期日までに一括して返還しなければなりません。

- ①貸与期間が終了したとき。
- ②貸与を取り消されたとき。
- ③その他修学資金等の貸与の目的を達成する見込みがなくなったと認められるとき。

【返還利息】 無利息

【遅延利息】

正当な理由がなく貸与を受けた修学資金等を返還すべき日までに返還しなかったときは、当該返還すべき日の翌日から返還の日までの日数に応じ、返還すべき額につき年14.6パーセントの割合で計算した延滞利息を支払わなければなりません。

【返還猶予】

次の返還猶予事由が生じたときは、返還を猶予します。

- ①修学資金の貸与を受けた者が、養成施設を卒業後に助産師の免許を取得しようとするとき。
ただし、1年を限度とします。
- ②指定医療機関の助産師として従事しているとき。
- ③災害、疾病その他やむを得ない事情があるとき。

【返還免除】

次の返還免除事由が生じたときは、返還を免除します。

- ①修学資金の貸与を受けた者が指定医療機関の助産師として従事した場合において、当該従事した期間が、3年に達したとき。
- ②就業資金の貸与を受けた者が指定医療機関の助産師として従事した場合において、当該従事した期間が、1年に達したとき。
- ③前2号の従事期間中に業務上の理由により死亡し、又は業務に起因する心身の故障のため、業務を継続することができなくなったとき。

募集人員など、詳しくはホームページをご覧ください。

https://www.union-ono.jp/loan_system/

